

「平成18年度施策評価結果」に係る 「市民意見募集」の実施結果について

1 結果公表及び意見募集方法

- (1) 市ホームページ上に『新総合計画「川崎再生フロンティアプラン」平成18年度進捗状況』として評価結果及び意見募集方法を掲載
- (2) 情報プラザ、区役所、市民館、図書館等に『新総合計画「川崎再生フロンティアプラン」平成18年度進捗状況』の冊子を配置
- (3) 市政だより(9月1日号及び9月26日号)に意見募集記事を掲載

2 意見募集期間

平成19年9月5日(水)から平成19年11月7日(水)まで

3 意見募集結果

- (1) 提出方法別結果一覧

提出方法	提出者数	意見数					
		小計	公表方法に関するもの	評価手法等に関するもの	政策評価委員会の審議結果に関するもの	施策・事務事業に関するもの	その他
メール	13人	13件	-件	7件	5件	-件	1件
電話	2人	7件	3件	1件	-件	-件	3件
郵便	1人	1件	-件	-件	-件	1件	-件
合計	16人	21件	3件	8件	5件	1件	4件

- (2) 主な意見等と市の考え方

次ページのとおり

内容項目	意見等の内容	意見等に対する市の考え方
1 公表の方法について(3件)	<p>冊子では事務事業の内容が分からない。事務事業の内容も知りたい。</p> <p>施策評価結果が市のホームページのどこに掲載されているのかが分かりづらい。</p> <p>(同様意見他1件)</p>	<p>事務事業の内容については、紙数の関係から冊子への掲載は必要最小限に止めており、<u>市のホームページ上で事務事業の概要等を掲載</u>していますが、<u>要望を踏まえ、情報プラザ等に事務事業の閲覧用ファイルを配置するなど事務事業の情報提供についても工夫</u>いたします。</p> <p>施策評価結果のホームページへの掲載につきましては、<u>意見を踏まえ、ホームページの関連付けの工夫を行うなど、分かりやすく検索が容易となるよう改善</u>します。</p>
2 評価手法等について(8件)	<p>市民の視点も大切だが、必要なのは行政のプロとしての評価ではないか。</p> <p>P D C Aサイクルを行政運営に導入している点は画期的で評価できるが、こうしたマネジメントの考え方が個々の職員にまで浸透していかないと意味がないと思う。今後の継続的な取組を期待したい。</p> <p>評価票を読んだだけでは、なぜAかBかが分かりにくい。その理由を端的に記述してはどうか。</p> <p>市の施策・事務事業を網羅的に掲載しているが、専門的な内容も多く、市民には理解しきれない。</p> <p>(同様意見他2件)</p>	<p>行政が行うサービスは、市民生活や都市機能の改善・向上に寄与するものでなければならないことから、<u>施策や事業の成果の把握に当たっては、市民の側から見てどのような効果・効用があったかという評価の視点が重要</u>となると考えます。こうした視点に立って、<u>評価技術の向上を図りながら自らが所管する施策・事務事業を評価することが必要</u>であると考えています。</p> <p>P D C Aサイクルによる計画の進行管理は、平成17年に新総合計画がスタートしたのを皮切りに導入されたものです。導入から2年半が経過しましたが、<u>考え方や手法について、職員間への一層の浸透が必要</u>であると考えていることから、<u>マニュアルや研修の充実などにより、職員の意識改革を図り、成果重視の行政経営</u>を行います。</p> <p>評価結果の理由については、<u>簡潔かつ明瞭に記載</u>するよう改善します。</p> <p>評価票の記載に当たっては、<u>専門用語の使用は避け、市民にとって分かりやすい表現</u>となるよう改善します。</p>

	<p>施策評価や事務事業の評価は、行政内部で自己評価しているとのことだが、自己評価だけでは評価が甘くならないか。</p> <p>(同様意見他1件)</p>	<p>市民への説明責任を果たしていく上で、施策や事務事業を実施している行政自らがその改善・改革を進めるために自己評価を行うことは重要であると考えていますが、<u>客観性を確保するために学識経験者や市民委員からなる第三者機関である政策評価委員会において行政内部の評価結果を検証していただくとともに、評価結果を市民に公表し意見等を募集することとしています。</u>こうした過程を通じて評価内容の精度を上げるとともに適正な評価を実施してまいります。</p>
<p>3 政策評価委員会について (5件)</p>	<p>政策評価委員会で、今後の課題として提起している3項目は納得できる。頑張っていたきたい。</p> <p>職員のスキルアップを求める政策評価委員会の意見は適切である。評価票によって出来、不出来が極端であり職員の資質がうかがえる。</p> <p>政策評価委員会において検証対象となった施策課題が平成17年度と平成18年度では異なっていて、比較ができない。検証対象は、同じものにして比較できるようにしてほしい。</p> <p>政策評価委員会における改善意見について、フォローアップはどうなっているか。</p> <p>政策評価委員会の検証は、なかなかシビアだと思う。</p>	<p>、 政策評価委員会からいただいた研修システムの構築などの提言については、市としても真摯に受け止めています。今後は、政策評価委員会の意見も伺いながら、<u>研修体系やマニュアルの整備を推進</u>するなど、提言の実現に向けた取組を進めてまいります。</p> <p>時間と人員に制約がある中で、より多くの評価票を政策評価委員に検証していただくことも必要と考えますので、<u>年度ごとに検証対象となる施策課題が変わることも止むを得ない面がありますが、前年度比較の視点も重要</u>ですので、<u>検証の対象とする施策課題の選定に当たっては、評価結果が比較できるよう可能な限り配慮</u>してまいります。</p> <p>政策評価委員会における<u>改善意見については、事業所管局へ通知し、次年度の評価票の作成に当たって改善に向けた取組を行うよう指導</u>しています。また、<u>政策評価委員会においても改善意見の付された施策課題については、次年度の検証に当たり、改善が図られているか重点的に確認</u>しています。</p> <p>政策評価委員会は、市の実施する施策等の評価の客観性及び公正性を確保し、あわせて評価の改善、改良に資することを目的として設置されたものであり、第三者の立場から審議をいただき、意見等をいただいています。</p>
<p>4 施策・事業事業について (1件)</p>	<p>施策・事務事業に関する取組要望(シニア関係1件)</p>	<p>意見内容について、今後の事業等の見直しに適切に反映させてまいります。</p>

<p>5 その他 (4件)</p>	<p>評価もいいが、行政と市民の信頼関係をまず築くことが大切ではないか。</p> <p>政策評価委員会の委員名簿を冊子作成時ではなく、速やかに公開して欲しい。</p> <p>政策評価委員会の議事録を速やかに公開して欲しい。</p> <p>各事務事業の達成度は、だれが評価しているのか。</p>	<p>行政自らが施策や事務事業の自己評価を行うことは、市民への説明責任を果たす上で重要であると考えます。こうした責任を果たしながら、市民から寄せられた意見を謙虚に受け止めて、<u>施策・事務事業の改善・改革を行っていくという取組を通じて、市民から信頼される行政をめざしたい</u>と考えています。</p> <p>、委員名簿及び議事録は、<u>ホームページで常時閲覧できるように改めます</u>。なお、委員名簿については、10月に委員が改選され委嘱手続きが終わっていませんので、手続きが終了次第、ホームページに掲載します。</p> <p>施策課題と同様、<u>事業所管課において、自己評価を行っています</u>。</p>
-----------------------	--	---